

# n 元連立 1 次方程式

樋口さぶろお <https://hig3.net>

龍谷大学理工学部数理情報学科

線形代数 L08(2019-06-11)

最終更新: Time-stamp: "2019-06-11 Tue 17:54 JST hig"

## 今日の目標

- 行列の行基本変形が説明できる 高橋線形 §4.1
- 行列の行基本変形で, 解なし, 不定も含め, 連立 1 次方程式の解が求められる 高橋線形 §4.1
- 行列の階数 rank が求められる 高橋線形 §4.1



## L07-Q1

Quiz 解答: 階段行列と連立 1 次方程式の解

$$\begin{aligned}
 & \begin{bmatrix} 6 & 1 & 5 \\ 3 & 4 & 2 \end{bmatrix} \xrightarrow{\boxed{1}:\boxed{1}+\boxed{2}\times(-2)} \\
 & \begin{bmatrix} 0 & -7 & 1 \\ 3 & 4 & 2 \end{bmatrix} \xrightarrow{\boxed{1}:\boxed{2},\boxed{2}:\boxed{1}} \begin{bmatrix} 3 & 4 & 2 \\ 0 & -7 & 1 \end{bmatrix} \xrightarrow{\boxed{1}:\boxed{1}\times\frac{1}{3}} \begin{bmatrix} 1 & \frac{4}{3} & \frac{2}{3} \\ 0 & -7 & 1 \end{bmatrix} \xrightarrow{\boxed{2}:\boxed{2}\times(-\frac{1}{7})} \\
 & \begin{bmatrix} 1 & \frac{4}{3} & \frac{2}{3} \\ 0 & 1 & -\frac{1}{7} \end{bmatrix} \xrightarrow{\boxed{1}:\boxed{1}\times(-\frac{4}{3})} \begin{bmatrix} 1 & 0 & +\frac{6}{7} \\ 0 & 1 & -\frac{1}{7} \end{bmatrix} \\
 & \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \frac{6}{7} \\ -\frac{1}{7} \end{bmatrix}
 \end{aligned}$$

## ここまで来たよ

7 略解: 2 元連立 1 次方程式

8 n 元連立 1 次方程式

- $m \times n$  行列の簡約化
- 簡約行列と連立 1 次方程式の解
- 逆行列

一般の n 元連立 1 次方程式 高橋線形 §4.1

n: 変数 (未知数) の個数, m: 式の個数.

未知数  $x_1, x_2, \dots, x_n$

係数  $a_{ij} \in \mathbb{R}$  ( $1 \leq i \leq m, 1 \leq j \leq n$ )

定数項  $b_i \in \mathbb{R}$  ( $1 \leq i \leq m$ )

$$\begin{cases} a_{11}x_1 + a_{12}x_2 + \cdots + a_{1n}x_n = b_1 \\ a_{21}x_1 + a_{22}x_2 + \cdots + a_{2n}x_n = b_2 \\ \vdots \\ a_{m1}x_1 + a_{m2}x_2 + \cdots + a_{mn}x_n = b_m \end{cases}$$

解: これを満たす組  $(x_1, \dots, x_n)$  の組.

解全体の集合 (解集合) は n 次元空間  $\mathbb{R}^n = \left\{ \begin{bmatrix} x_1 \\ \vdots \\ x_n \end{bmatrix} \mid x_i \in \mathbb{R} \right\}$  の部分集合.

## 係数行列, 拡大係数行列による楽な表現

$$\begin{cases} 2x - y = 4 \\ 3x - y = 5 \end{cases}$$

1

2

拡大係数行列, 係数行列

$$\text{拡大係数行列 } \tilde{A} = \begin{bmatrix} 2 & -1 & 4 \\ 3 & -1 & 5 \end{bmatrix} \quad \text{係数行列 } A = \begin{bmatrix} 2 & -1 \\ 3 & -1 \end{bmatrix}$$

これらを使って書くと, もとの連立 1 次方程式は,

$$\tilde{A}\tilde{\boldsymbol{x}} = \mathbf{0}, \quad A\boldsymbol{x} = \boldsymbol{b}$$

$$\text{ただし, } \tilde{\boldsymbol{x}} = \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ -1 \end{bmatrix}, \quad \boldsymbol{x} = \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix}$$

## 行列の行基本変形

$m \times n$  行列で

操作 I(i,a)  $i$  行目に定数  $a$  をかける ( $a \neq 0$ )

操作 II(i,j,b)  $i$  行目に  $j$  行目の  $b$  倍を加える

操作 III(i,j)  $i$  行目と  $j$  行目を入れ替える

<https://bit.ly/rrmatrix>



(全学認証)

### 高橋線形定理 4.1

拡大係数行列に行基本変形を行っても、対応する連立 1 次方程式の解は変わらない

## 復習

L08-Q1

## Quiz(階段行列と連立 1 次方程式の解)

変数  $x, y$  に対する連立 1 次方程式の拡大係数行列

$$\begin{bmatrix} a & 2 & 0 \\ 1 & 4 & 0 \end{bmatrix}$$

を、行基本変形により、階段行列に変形し、階数を求めよう。  $a$  は定数。  
連立 1 次方程式の解を求めよう。

Hint:  $a$  の値による場合分けが必要かも。

## 階段行列

### 階段行列

$m$  行  $n$  列の行列  $A$  が階段行列であるとは、  
 $i$  行の、左から連続する 0 の個数を  $l_i$  個 ( $1 \leq i \leq m, 0 \leq l_i \leq n$ ) として、

$$l_1 < l_2 < \cdots < l_r < \underbrace{l_{r+1} = \cdots = l_m =}_n n$$

$r=m$  ならこの部分はなくともよい

であること。このとき、 $r = \text{rank} A$  (階数)。

零行列は、階段行列で  $r = 0$  とみなす ( $l_0 = l_1 = \cdots = l_m = n$ )。

### 簡約行列

行列  $A$  が簡約行列であるとは、 $A$  が階段行列で、かつ次を満たすもの。

- 行の最初の non-zero 成分  $\alpha, \beta, \dots$  (ピボットという) は 1。
- 各列のピボットより上の成分はすべて 0



階段行列, 簡約行列の例 ( $\alpha, \beta, \gamma \neq 0, * : \text{任意}$ )

$$\begin{bmatrix} 0 & \alpha & * & * & * \\ 0 & 0 & 0 & \beta & * \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \end{bmatrix}$$

$$\begin{bmatrix} 0 & 1 & * & 0 & * \\ 0 & 0 & 0 & 1 & * \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \end{bmatrix}$$

$$\begin{bmatrix} 0 & \alpha & * & * & * & * \\ 0 & 0 & \beta & * & * & * \\ 0 & 0 & 0 & 0 & \gamma & * \end{bmatrix}$$

$$\begin{bmatrix} 0 & 1 & 0 & * & 0 & * & * \\ 0 & 0 & 1 & * & 0 & * & * \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 1 & * & * \end{bmatrix}$$

$$\begin{bmatrix} \alpha & * & * \\ 0 & \beta & * \\ 0 & 0 & \gamma \end{bmatrix}$$

$$\begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}$$

$$\begin{bmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 0 \end{bmatrix}$$

$$\begin{bmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 0 \end{bmatrix}$$

$\ell$  の不等式を書いて.  $r$  は?

## 高橋線形定理 4.2

ひとつの行列  $A$  から出発して行基本変形をしたとき,

- ① **階段行列**に到達しても, その行列は一意的でないが, **階数** (0 でない成分を含む行の個数) は一意的 (だから  $\text{rank}A$  と書く).
- ② **簡約行列**に到達したとき, その簡約行列は一意的.

## ここまで来たよ

7 略解: 2 元連立 1 次方程式

8 n 元連立 1 次方程式

- $m \times n$  行列の簡約化
- 簡約行列と連立 1 次方程式の解
- 逆行列

**解が存在しない場合**

高橋線形 §4.1 例題 4.1(2)

$m \times (n + 1)$  型拡大係数行列  $\tilde{A}$  を階段行列に変形したとき,  $\alpha \neq 0$  で,

$$\begin{bmatrix} \vdots & & & & & \\ 0 & 0 & \cdots & 0 & \alpha & \\ \vdots & & & & & \end{bmatrix}$$

となっているとき.

$0 \cdot x_1 + \cdots + 0 \cdot x_n = \alpha \neq 0$  となっているので, 矛盾. 解なし.  
さらに簡約行列にしてもこの形.

$\text{rank} \tilde{A} > \text{rank} A$ .

## 解が存在する場合の解き方 高橋線形 §4.1 例題 4.1(1)(3)

- ① \* になっている列の変数を, パラメタ  $s, t, \dots \in \mathbb{R}$  とおく.
- ② ピボットの列に対応する変数は, パラメタで書ける.

例

$$\begin{bmatrix} 0 & 1 & 0 & * & 0 & * & b_1 \\ 0 & 0 & 1 & * & 0 & * & b_2 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 1 & * & b_3 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \end{bmatrix}$$

変数名を  $x_1, x_2, x_3, x_4, x_5, x_6$  とする.

ピボットの \* の列から

$$x_1 = s$$

$$x_2 = b_1 - 0 \cdot s - *t - *u$$

$$x_3 = b_2 - 0 \cdot s - *t - *u$$

$$x_4 = t$$

$$x_5 = b_3 - 0 \cdot s - *t - *u$$

ピボット以外の列 (0 や \* の列) について,  $x_1 = s, x_4 = t, x_6 = u$  とおく.

ピボットの列だけなら一意な解.

## 高橋線形 §4.3 定理 4.4

$n$  元連立 1 次方程式の  $m \times n$  型の係数行列を  $A$ ,  $m \times (n + 1)$  型の拡大係数行列を  $\tilde{A}$  とするとき,

- $\text{rank}\tilde{A} = \text{rank}A + 1$  なら解なし.
- $\text{rank}\tilde{A} = \text{rank}A (= r) < n$  なら無限個の解 ( $n - r$  個のパラメタ)
- $\text{rank}\tilde{A} = \text{rank}A = n$  なら一意解

## 高橋線形問題 4.7

## 同次方程式の場合

右辺が  $\mathbf{b} = \mathbf{0}$  である連立 1 次方程式を同次方程式, 右辺が  $\mathbf{b} \neq \mathbf{0}$  である連立 1 次方程式を非同次方程式という. (非) 同次=(non-)homogeneous.

$$A\mathbf{x} = \mathbf{0}$$

は常に自明解 (trivial solution)  $\mathbf{x} = \mathbf{0}$  を持つ. それ以外の解を非自明解 (non-trivial solution) という.

高橋線形 §4.3 定理 4.5

$n$  元連立 1 次方程式の係数行列を  $A$ , 拡大係数行列を  $\tilde{A}$  とするとき,

- $\text{rank}\tilde{A} = \text{rank}A + 1$  なら解なし.
- $\text{rank}\tilde{A} = \text{rank}A (= r) < n$  なら自明解に加えて無限個の非自明解 ( $n - r$  個のパラメタ)
- $\text{rank}\tilde{A} = \text{rank}A = n$  なら一意解 (自明解)  $\mathbf{x} = \mathbf{0}$ .

線で消したところは, 同次方程式に対しては起きないので簡単化される.

## ここまで来たよ

7 略解: 2 元連立 1 次方程式

8 n 元連立 1 次方程式

- $m \times n$  行列の簡約化
- 簡約行列と連立 1 次方程式の解
- 逆行列



## 行基本変形による逆行列の決定 ( $3 \times 3$ 以上)

高橋線形 §4.4

### 行列の行基本変形

$m \times n$  行列で

- 操作 I( $i, a$ )  $i$  行目に定数  $a$  をかける ( $a \neq 0$ )
- 操作 II( $i, j, b$ )  $i$  行目に  $j$  行目の  $b$  倍を加える
- 操作 III( $i, j$ )  $i$  行目と  $j$  行目を入れ替える

操作 I の、行列  $P$  を  $A$  の左からかけることによる表現

$$PA = i) \begin{bmatrix} 1 & & & & & & & & & \\ & \ddots & & & & & & & & \\ & & 1 & & & & & & & \\ & & & a & & & & & & \\ & & & & 1 & & & & & \\ & & & & & \ddots & & & & \\ & & & & & & & & & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} a_{11} & a_{12} & \cdots & a_{1n} \\ \vdots & & & \\ \vdots & & & \\ a_{i1} & a_{i2} & \cdots & a_{in} \\ \vdots & & & \\ \vdots & & & \\ a_{m1} & a_{m2} & \cdots & a_{mn} \end{bmatrix}$$



$k$  回の変形の繰り返しは

$$P_k \cdots P_3 P_2 P_1 A.$$

よって  $A^{-1} = P_k \cdots P_1$  であるはず。

これでまあ簡単に求める方法.  $n \times (2n)$  行列  $[A|E]$  を簡約行列に変形する.  $\text{rank} A = n$  なら,

$$[A|E] \xrightarrow{\text{行基本変形 } k \text{ 回}} [(P_k \cdots P_1 A)|(P_k \cdots P_1 E)] = [E|B]$$

となる.  $B = A^{-1}$ .

## 例題

## Example

基本変形による逆行列の求め方

$$\begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix}^{-1} = ?$$

高橋線形問題 4.13, 演習問題 4.5

## 連絡

- 来週 2019-06-18 火 3 は…
- 紙の Trial
- 学期途中の振り返りのレポート (2019-06-11 火 23:55)  
<https://manaba.ryukoku.ac.jp>

線形代数 LINE  
公式アカウント



<https://line.me/R/ti/p/@arl7841z>

しばらく情報メディアセンターの Moodle と, Maple T.A. を併用.  
どちらからログインしてやってもかまいません.

検索「龍谷 Moodle」

→ 火 3 19 前 樋口 線形代数

[https://moodle.media.  
ryukoku.ac.jp/course/view.  
php?id=2201](https://moodle.media.ryukoku.ac.jp/course/view.php?id=2201)



サポート

[https://maple.st.ryukoku.  
ac.jp/](https://maple.st.ryukoku.ac.jp/)



- 樋口オフィスアワー火 5(1-507, 1-542)
- 学科チューター 水昼, 1-342
- 初年次学習支援センター 火水 12:45-15:45, 生協コンビニ地下